

平成 31 年度 出雲医療看護専門学校

教育課程編成委員会議事録

日 時：平成 31 年 3 月 21 日(木) 14：45～16：15

場 所：出雲医療看護専門学校 1F 講堂

教育課程編成委員出席者：

- 秦美恵子 【看護】 (島根県看護協会 会長)
- 神田真理子 【看護】 (島根大学医学部附属病院 副病院長、看護部長)
- 福田勇司 【臨床工学技士】 (島根県臨床工学技士会 会長)
- 太田真英 【理学療法士】 (島根県理学療法士会会長)
- 廣江正幸 【言語聴覚士】 (山陰言語聴覚士協会 理事)
- 藤江美穂 【言語聴覚士】 (出雲市立総合医療センターST リハビリ技術科主任)
- 橋本学校長 今岡副学校長 松井教務部長 片寄教育顧問
- 小田原学科長 高田学科長 新井学科長 門脇学科長
- 落合副学科長 坂田副学科長 加藤副学科長 野津専任教員
- 阿守課長

欠席者： 糸賀修也 【臨床工学技士】 (島根大学医学部附属病院 ME センター 副センター長)

福田淳 【理学療法士】 (ディサービスサイン マネージャー)

笠原次長

進 行：今岡 書 記：阿守、各学科

議題	内 容
1. 開会 (今岡) 2. 校長挨拶 (橋本) 3. 本校の取組と 今後の計画 (松井) 4. 全体会 (各学科長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業実践専門課程の認定を受け、引き続き業界からの意見を伺いたい ・ 前回の教育課程編成委員会での議題、現行のカリキュラムから今後学科として目指すべき形はどこにあるか、忌憚の無いご意見を伺いたい。 ・ 4 学科より前回の意見を踏まえて学科の取組みを説明
5. 意見交換 分科会 看護学科	<p>【看護学科】</p> <p>(小田原)：障害がある人だけでなく、普段からの学生間での関わり方を考えて対策をたてた。教課外活動の時間を利用しチーム医療についての講義を 4 学科合同で最初に行いその後事例検討をしていく。</p> <p>(秦)：就職すると組織の中で専門性という枠の中で仕事をしている。その隙間をだれが埋めていくかが問題。お互いに協働していくためには、まず、相手を知ることが大切ではないか。学生よりまず、教職員間での挨拶はどうか。学校、組織全体の挨拶はどうか。</p> <p>(小田原)：各学科の学生間で自分の職種や他の学科の職種を調べることもやっていく必要がある。</p>

(神田) : チーム医療の理解も必要。看護師があつて多職種がある。相手を理解するには、ある程度知識が必要ではないか。勤怠の関係もありタスクシフティングされている。看護師しかできないこと、看護師が主導権をとって行うこと。多職種ができることがありそれぞれにタスクシフティングしている。今現場はそういった動きがある。学生ばかりでなく、現場の問題、指導者の問題もある。

(秦) : 就職してから学ぶことも多い。多職種との考え方のギャップもでてくる。

(神田) : 病院は法律で変わってきている。チーム医療と退院支援が主体となり、それぞれの立ち位置もかわってきている。

(秦) : 協働が大事になる。訪問看護と一緒に理学療法士が同行したりしている。多職種と接点を持つことで診療報酬がもらえるようになっている。病院だけでなく地域のこともわからないといけない。

(神田) : 世の中の動きが分からないといけない。

(秦) : 訪問看護に新人が就職するのも難しい。

(小田原) : 学生の中には社会人もいて最初から訪問看護や施設を希望している人もいる。物の管理については、カードキーを紛失する学生がいた。なくしたらどうなるかということの重大さが理解できていない学生がいる。現在、学生証を管理することで練習させている。

(神田) : 多職種連携は難しいところもある。職種によっては、研究や資格取得のモチベーションが高いところもある。それぞれの職種で考え方が違う。

(秦) : 医師は看護師体験があるが他職種はない。何かあるとよいが・・・

(神田) : 学生の頃から文化祭や部活など学科を越えて活動できるとよいのではないか。

(秦) : 学科ごとのやり方で動いているのではないか。企画自体が学科単位では共有できないのでは。

(神田) : 大学は、部活などは学科を越えて活動している。そこでコミュニケーションがとれている。講義も大事だが日頃からの付き合いも大切ではないか。

(秦) : ボランティアはポイント制?ポイント制にしてはどうか。参加する学生が増えるのでは。合同授業については、4学科合同でするのは時間の捻出をしないと難しいのでは。期間は、2年生後半くらいがよいのではないか。

(神田) : 4学科の教員の連携も大切、教員間のコミュニケーションもとれていないといけない。

分科会
理学療法士学科

(小田原)：教員間の連携については、教務連絡会で共有しているが不足している。十分共有できるようにしていく必要がある。

【理学療法士学科】

(太田)：業界からとしては、自らが考えて動ける人材の育成をお願いしたい

(坂田)：考えて動ける人材（主体性）をもう少し具体的に表現すると？

(太田)：「①学生レベルとして知識を自分のものになっているかどうか。OSCE で検査・測定の練習を行っているため臨床実習では、検査・測定の技術に関しては形になっている。その後の出てきた数値をどう考えるかが課題として考えている。」

「②今後 PT は人数が増え、また 3 年制課程ではカリキュラムがタイトになることが予想される。今後は、向上心を持ってさらに必要とされる人材を目指して欲しい。」

(高田)：「①数値の考え方など紙ベースでの演習を取り入れ、数値の解釈が行えるよう学校でも指導していきたい。②では、3 年次の理学療法研究法を行い日常の疑問を解決するプロセスを学習するようにしている。また、理学療法概論にて今後の理学療法の現状（必要性や課題）を伝える。」

(福田)：「自らが考えて動ける人材の育成に小学生でもある総合学習を導入してみてもどうか。主体性や規則など人間力を高め社会的スキルを醸成するような学習はどうか。」

(高田)：「カリキュラムとして考えると、高齢者や障害者との交流の場を通してより現実性をみるものを検討している。」

分科会
臨床工学技士学科

【臨床工学技士学科】

(新井)：学生指導においての課題はコミュニケーションが取れない学生が多いことである。今のカリキュラムではコミュニケーションを向上させることができない。メーカーや外部講師を頼むのが少なく、他者とコミュニケーションをとるのが難しい。教科外活動を使ってできる限り、外部の人たちと接するようにしている。将来的にはカリキュラムの中に入れてたいが（教科外活動で行っている外部の人たちと接するような授業を）今すぐに入れる事はできない。コミュニケーション能力が低いといわれている。実習においてもコミュニケーションが必要である。なんとかコミュニケーションの向上を目指しているが個々の特性もあり、すぐには変わらない。今年の学生は主体性が低く、自分から動くことはない。4 月上旬まで実習に向け（主体性というポイントを向上するために）学生指導を行う予定である。

(福田)：カリキュラムの構成は言うまでもないが、教える側として勉強会や資格を取りに行っているのか。

(新井)：学園としてカウンセリング研修や FD 研修を行っているので参加して教員としての質を上げている。教員研修もあるが全員参加できていないが、順次参加している。教員の質を上げるような研修が増える予定である。

(福田)：資料を全部見ても意見は言えない。変更した点だけを教えてもらったほうが良い。

(新井)：研修に行ったからといってすぐに指導が変わるわけではないので、徐々に変わっていけばよい。内容がすぐに変わるわけでもカリキュラムを変更することも難しい。

(福田)：カリキュラムがどうかとは考えていない。国家試験さえ受ければよいのではないか。看護師の国家試験の傾向が変わってきているので、臨床工学も変わる可能性がある。

(新井)：問題を読み解く問題が増えている。語彙読解力検定などの勉強も取り入れ対策しようとしている。計画としてどの間隔、どのくらいの時間を費やすかを考えていないので今後詰めていく。3年生の授業は8月以降減ってくる。減ったコマで国家試験対策やコミュニケーション向上のトレーニングを行っている。1年生だと英語があり、教員と学生、学生と学生と言葉を交わす。2年生では海外研修があり、文化交流もあるがコミュニケーション向上まで至っていない。

(福田)：何が指導のポイントとして困っているか。

(新井)：内部のコミュニケーションは取れているが外部社会に出たときのコミュニケーションが取れていない。3年間のモチベーションを保つことが難しい。他学科との連携授業は他学科を見て、(他学科のほうがいいと思うと)いいなと思うとモチベーションが下がるのではないかと懸念される。コミュニケーションが取れないことでモチベーションが下がるのではないかと。

(福田)：モチベーションを保つ為に何をしなければならないか。コミュニケーションが低いからモチベーションが保たれているのではないかと。

(加藤)：勉強についていけない学生、勉強をやりたくない学生のモチベーションが下がる傾向があるのではないかと。

(福田)：学校なので勉強面によって学生のモチベーションが維持できないのではないかと。

(新井)：(わからないことを先生に)聞けない学生が多い。質問することもコミュニケーションの一つである。

(福田)：もともとこれだけの勉強をしなければならないと思う学生は少ない。そこにギャップを抱えているのではないかと。学生が原因なのか教員に原因があるのかと追求しなければならない。どんな学生がきても教育できるように(教員は教育の)スキルを持っておかなければならない。教える側の意識改革をしていく、今まで通りにやっていると学生は離れていくのでは。

(新井)：コミュニケーション能力を養うことで自主的に解決できるのではないかと。質問を自発的にするなど。

(加藤) : コミュニケーションよりも考える力を養ったほうがよいのではないか。

(新井) : 考える力を養うことは必要。(松江赤十字病院で) 実習 (を受け入れた際) に対してコミュニケーションが低い学生はいたが。

(福田) : コミュニケーションについて何が良くて何が悪いのか線引きできない。学生の能力をみて情報共有をしているのであまりコミュニケーションについて重要視していない。実習のときには臨床工学技士はカッコいいと思わせたかったが、入ってからのギャップがあるのでありのまま見せてあげたい。実習のコミュニケーションが取れなかった場合、実習に出さないという手はないか。

(新井) : OSCE でコミュニケーションや実習前指導をしているが、必修ではないので (実習に) 出さないという手段としてできない。現状学力以外で実習に出さないということとはできない。

(福田) : カリキュラムを受けることが難しいなら、指導者側が変わるしかないのか。

(新井) : 変えられない限りしっかりと指導していかなければならないのでは。

(福田) : (指導者側は) 実習を落とすのが簡単であるが、落ちた学生は実習態度や要件を見たっていないのであってそれを改善させることは難しいのでは。(再実習を組んでも受かるものなのか。) 落ちた学生はモチベーションが下がるのでそこをどのように上げるかが必要ではないか。

(新井) : 医療職を作るのでだめだったらだめと線引きをしなければならない。何が駄目だったかを気付かせることが重要。

(福田) : 教える側にまとまりがなければ教えることができないのではないか。教員同士まとまりがあるか。

(新井) : 学生に厳しく接するときもあればやさしく接することもあればと役割分担ができています。

(福田) : 学校から学生に対しての意見交換をしたほうが良いのでは。学生同士のすりあわせをしていきたい。

(加藤) : 松江赤十字病院に入る新人を見ていてかけているものはないか。

(福田) : 欠けているものが多すぎて求めなくなった。社会人としては遅刻や無断欠席をしないということぐらいか。

(加藤) : (本校は) どのような学生を作り上げるのがよいか。

(福田) : モチベーションが高い学生、地元に残ってほしい。地元で勉強できるすばらしさをもっと伝えてほしい。

分科会
言語聴覚士学科

【言語聴覚士学科】

(門脇) : 前回ヒアリングでコミュニケーション能力不足の指摘、見学実習を増やす提案いただいた。来年度、会話について座学後、演習を計画している。個別対応をしてコミュニケーション能力アップを目指す。失語症 : 友の会に協力依頼。高令者 : ①公民館に協力依頼 まず今の公民館活動に出かけ関係性を作る。現在は出前講座実施。②教員身内

広江) : 市が高齢者の集まりを把握していないか。担当から紹介してもらうのはどうか。

藤江) : コミュニケーション能力が高いとは、どう捉えるのか。ST特有の能力もある。話し相手がよく話す人だと 30 分楽に終わる。会話の意味があるか。STとしての会話の大切さが伝わるか。会話をして、学生がどう振り返るかが大切。学生の中には自分ばかり話す人がいる。何のためか考えられていない。自己分析ができ、場面を設定して自分を想像してもらう。

広江) : 会話の目的により難易度が変わる。学生ごとに目標を決めると良いか。学生だからスモールステップで成功体験ができると良い。出来ない人はなぜできないか考えないといけない。

野津) : 実習前指導でOSCE実施している。撮影した映像をもっと活用して振り返ると良いか。前勤務校で近隣施設に学生を引率して会話、活動立案・実施、振り返りをしていた。

阿守) : 学生は個人差が大きい。きっかけがあれば話せる子もいる。近隣のデイ・サービスに出かけて教員が手本を見せる。学生が嚙下体操指導を考えるなどどうか。遠足として学校に来てもらうのもどうか。

門脇) : 嚙下障害の方に実際に関わることが難しく評価演習ができない。映像などご協力いただけないか。

広江) : 院内の倫理委員会にかけて映像の協力出来るかもしれない。食事—VF両方の動態を見比べるのはどうか。

門脇) : 1年の見学実習と2年の評価実習の間が開きすぎる。

広江・藤江) : ~2日くらいなら受け入れ可能。

門脇) : 1年に多くの科目があり乗り切るのが大変である。近隣施設で一日見学、モチベーションを上げる見学をお願いしたい。

5. 閉会挨拶 (今岡)